

## 平成 25 年度 教員活動自己点検・評価報告書 記載内容のまとめ

※各項目ともに「C 積極的でなかった」の自己評価に対する理由を記載

※同様な内容は同一記載として一括

### 1. 教育活動

#### (1) 授業活動

Cの自己評価なし。

#### (2) 実習指導活動

※実習を持たない教員は除く。

・実習後に行なっている症例報告会の参加と学生に対する指導にとどまった。

#### (3) 教育改善活動

Cの自己評価なし。

#### (4) 研究指導活動

※卒業研究指導を行わない教員は除く。

Cの自己評価なし。

### 2. 研究活動

#### (1-1) 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

- ・学術論文として発表できていない。(同様記載 3 名)
- ・成書編集、分担執筆や依頼原稿作成は行えたものの、学術論文はまったく発表できていない。
- ・研究成果の発表および公表は 1 本であった。
- ・24 年度に予備的に行った研究を研究発表へとつなげる予定であったが、実践できなかった。
- ・これまで継続している研究について、継続的にデータ取りを進めるなどの作業が滞った状況で推移した。
- ・研究にはなじみにくいフィールド、活動内容であるため、対象者関係者の理解・協力関係を得ることに時間を要した。
- ・現在作成中の論文の解析作業を進めることができなかった。
- ・教員での職務が不慣れであり、授業準備等にかなり時間を費やした。
- ・業務多忙につき時間的余裕が無かった。
- ・1 年および 2 年次の学習支援に入ったこと、再チャレンジ組を指導したこと、多くの留年生を抱えた国家試験対策になったことで、時間的余裕が一昨年度より減少した。
- ・学生指導や授業準備、教務事務などの日常業務のため、時間の確保が困難であった。
- ・授業準備を最優先で行うと決めていた為、その分研究活動が犠牲になり、論文による研究発表活動は活発では無かった。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕が無い。

### **(1-2) 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。**

- ・研究発表活動そのものを行なうことができなかつたため。(同様記載7名)
- ・時間の調整が難しく、十分に内容を検討できないまま発表したことが多かつた。
- ・全国誌への投稿を目指した論文が受理されなかつた要因として、臨床研究の質の部分にあることが考えられる。
- ・原著論文は何度か投稿したが採択されなかつたため。
- ・高い質は確保されなかつた。
- ・研究にはなじみにくいフィールド、活動内容であるため、対象者関係者の理解・協力関係を得ることに時間を要するため。
- ・24年度に予備的に行つた研究を研究発表へとつなげる予定であつたが、実践できなかつた。
- ・業務多忙につき時間的余裕が無かつた。
- ・時間の確保が困難であつたため、研究活動に至らなかつた。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕が無い。

### **(2) 学会等における研究発表活動**

- ・学術講演、学会発表ともに行えていない。(同様記載5名)
- ・今年度は論文での報告という形に終始した。
- ・日本作業療法学会を大阪で開催したため、自身の発表よりも企画運営に力を注いだ。
- ・日本公衆衛生学会での発表活動のみであつた。
- ・院生の研究指導に時間を費やし、学術集会等への参加はできなかつた。
- ・24年度に予備的に行つた研究を研究発表へとつなげる予定であつたが、実践できなかつた。
- ・授業準備を最優先で行うと決めていた為、その分研究活動が犠牲になり、論文による研究発表活動は、活発では無かつた。
- ・業務多忙につき時間的余裕が無かつた。
- ・時間の確保が困難であつたため、研究活動に至らなかつた。
- ・研究や学会発表に振り当てる時間が調整できないため。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕が無い。

### **(3-1) 競争的資金の申請・獲得状況**

- ・申請できていないため。(同様記載7名)
- ・研究内容から資金の獲得は現在のところ必要とはならない。
- ・申請の準備に留まつた。
- ・具体的な研究テーマが思い浮かばなかつた。
- ・文部科学省委託事業を申請する研究メンバーの1人として参加した。
- ・前年度に申請した科学研究費が採択され、それに集中するため。
- ・現在、研究に振り当てる時間が調整できないため。
- ・時間の確保が困難であるため、申請に至らなかつた。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕が無い。

### 3. 社会貢献活動

#### (1) 府等の委員会への参画活動

- ・国、府、市町村等の委員会への参画活動はできなかった。(同様記載多数)
- ・委員会には所属していない。
- ・大学としては必要不可欠な活動であるが、個人的に必要性を感じない。
- ・大阪府障がい者介護給付費等不服審査会委員を務めたが、会議の招集が一回で、スケジュールの関係でその会議に出席できなかった。

#### (2) 地域に密着した学習支援活動

- ・地域に密着した学習支援活動は特に行わなかった。(同様記載9名)
- ・参画する機会、依頼が無かったため活動していない。(同様記載3名)
- ・高校での進学ガイダンス以外に、社会人向けの公開講座、高大連携講座を実施していない。
- ・社会人向けの公開講座、高大連携講座はまだ行ったことがない。ただしNPO活動を通じた地域支援活動は継続している。
- ・依頼はされたものの、時間的余裕がなくお断りしてしまった。

#### (3) 職能団体参画等の活動

- ・職能団体の行事や活動において、貢献、協力できなかった。(同様記載6名)
- ・要請が無く、参加していない。
- ・長年努めた大阪府理学療法士会理事を退任した。以後積極的な活動はない。
- ・日本作業療法学会の手伝い程度であった
- ・自分なりに作業療法の普及に関連した活動を積極的に行ったつもりであるが、職能団体を通じて行ったものはほとんどなかった。
- ・個人的にその必要性を感じない。

### 4. 大学運営活動

#### (1) 各種委員会活動

Cの自己評価なし。